

## 観点別学習状況の評価（A～C）の事例とその評価基準

### 1 評価のねらい

本校は単位制による定時制高校で、昼間部には外国籍の生徒や不登校の経験がある生徒など多様な課題を抱える生徒が在籍している。そのため、学力にも幅広く個人差が見られ、平均的な高校生の学力がある生徒と足し算や引き算、漢字やアルファベットの読み書きができない生徒が混在している。

本時は化学分野の中でも栄養素について学習する最初の時限であり、今後の学習の基礎になる内容が多い。したがって、今回の学習を今後の学習につなげていくとともに生徒自身が学習の変容を実感し、自信につなげていくことをねらいとした。

### 2 評価基準 【知識・技能】の評価

- A 授業後のイメージマップに明らかな内容の変化や増加が見られ、キーワードのつながりも適当である。
- B 授業後のイメージマップに内容の変化や増加が見られるが、キーワードのつながりに誤りがある。
- C 授業後のイメージマップに変化が見られない。

### 3 生徒の評価事例

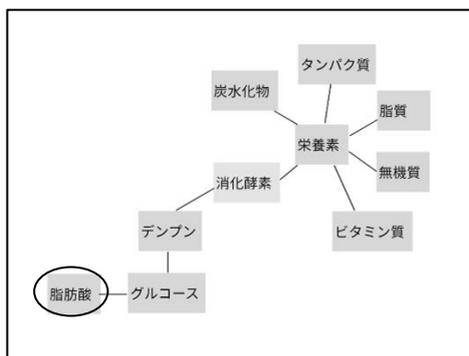
ここでは授業後のイメージマップの記述内容や記述量を分析することにより、評価を行う。

#### 【評価Bの例】

授業前のイメージマップ



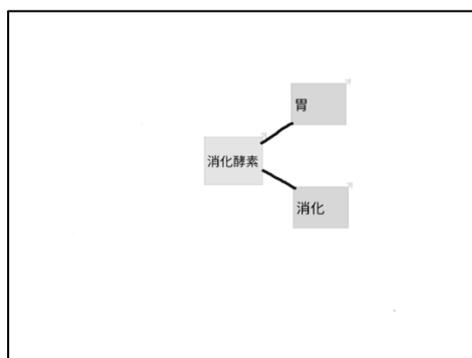
授業後のイメージマップ



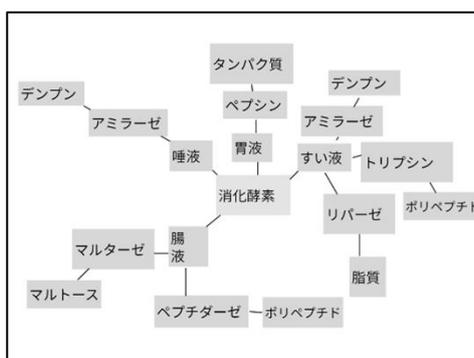
授業前から授業後にかけて、内容の変化や記述量の増加は見られるが、キーワードの誤り（○の部分）や消化酵素についてのキーワードがない。このことから「おおむね満足できる状況」（B）と判断できる。

#### 【評価Aの例】

授業前のイメージマップ



授業後のイメージマップ



授業前のイメージマップ

授業後のイメージマップ

